

福島市中心市街地将来ビジョン

提言書

平成30年11月27日

福島市中心市街地将来ビジョン検討委員会

福島市中心市街地将来ビジョンに関する提言書

福島市中心市街地将来ビジョン検討委員会において、まちづくりの課題を踏まえて、福島駅を中心とした中心市街地の活力の向上と交流人口の拡大に向け、誘導すべき高次都市機能やまちづくりの方針について検討しましたので、以下のとおり提言いたします。

1 まちづくりの基本的な考え方について

福島駅を中心とした中心市街地は、県都にふさわしい魅力あふれる広域的な拠点として、さらに発展するために交流・集客拠点の整備と多様な都市機能の集積強化を図り、魅力の向上と賑わいの創出を目指したまちづくりを推進すべきであると考えます。

2 福島駅周辺の中心市街地におけるまちづくりの方針について

中心市街地の魅力向上と賑わいの創出を目指したまちづくりを推進するため、5つの視点でのまちづくり(まちづくりの方針)を行うべきであると考えます。

(1) 広域的な拠点地区として活力のあるまちづくり

広域コンベンション・商業・業務・教育・文化・医療・福祉・生涯学習・宿泊・交流・情報発信など多様な都市機能を集積強化させ、活力あるまちづくりを推進すべきであると考えます。

(2) 魅力的で賑わいのあるまちづくり

商業環境の活性化やイベント等の充実、街なか観光の強化により、魅力的で賑わいのあるまちづくりを推進すべきであると考えます。

(3) まちを楽しみ、すごせるシンボル軸・回遊空間づくり

住む人も、訪れた人も、まちを楽しみ、すごせる歩行・広場空間づくりを推進すべきであると考えます。

(4) 快適で住みやすいコンパクトなまちづくり

生活に必要な都市機能が充実し、誰もが便利で安全・安心・快適にすごすことのできるまちづくりを推進すべきであると考えます。

(5) みんなが参画し連携するまちづくり

暮らし・学び・働く人々が一緒に、自らのまちを考え、中心市街地のまちづくりを進めるため、ルールや仕組みをつくり、効果的かつ効率的に実践すべきであると考えます。

3 強化すべき都市機能の配置

福島駅周辺は、公共交通の要衝として首都圏などからのアクセスも良く、広域的な商業・高度医療・大学が集積する福島の強みを生かし、さらなる商業・教育・文化・交流機能の集積・強化を行い、福島らしさの醸成が必要であると考えます。

また、今後のまちづくりにおいては、公共投資の効率化や重点的施策の推進などが求められているため、広域利用向けの都市機能が集積している「駅前周辺エリア」と、本市の行政の中心として、市民利用向けの機能が集積している「市役所周辺エリア」に分け、より具体的な都市機能の配置について示すものとします。

(1) 駅前周辺エリアについて

駅前周辺エリアは、アオウゼ及びこむこむ館までの南北動線軸と、大原総合病院までの東西動線軸が形成されており、リニューアルされた東口駅前通り周辺に、今後予定の県立医科大学新学部・市街地再開発事業の整備により都市機能を集約させ、駅前の活性化を図るべきであると考えます。

① 広域的な拠点地区として都市機能を集約

ア 複合型の市街地再開発事業による拠点形成

駅前に計画している複合型の市街地再開発事業は、広域的な商業・宿泊・バンケット・交流・業務・駐車場・居住などの都市機能が集約され、福島の顔となる利便性の高い交流拠点が形成されることが期待されます。

特に、商業機能については、駅前の顔として人を引きつける魅力的な施設とするため、マーケティングリサーチのもと、事業を推進すべきであると考えます。

イ コンベンション機能などの駅前配置

現在、公共施設の再編整備において、コンサート・文化芸術・会議などの利用を検討しているコンベンション機能については、にぎわいの創出や交流人口の拡大の観点から、大学や高度医療などの広域利用向けの都市機能が集積している駅前に配置すべきであると考えます。

なお、コンベンション施設整備にあたっては、コンセプトを明確化し、官民連携や民間事業者のアイデアを取り入れるプロセスの検討を行い効果的・効率的な施設運営を行うべきであり、具体的な規模などの検討を進める際には、市場について調査分析を行うとともに、費用対効果の検証を踏まえ拠点性を強化する内容にすべきであると考えます。

また、官・民、双方にとってメリットを生み出すことが可能となる事業のあり方を検討すべきものと考えます。

教育・文化・図書館・生涯学習・スポーツアミューズメント機能についても、にぎわいの創出や交流人口の拡大の観点から、駅前周辺に機能の配置を検討すべきであると考えます。

ウ 駅前周辺の既存施設の再活性化

アオウゼ及びこむこむ館などの既存施設については、機能強化の検討や有効利用により再活性化を図るべきであると考えます。

②商業などの活性化・賑わい創出

ア 個店や商店街の魅力創出

商業形態が変化している中で、個店ごとの情報発信や吸引力の強化や、特徴のある魅力的な商店街としてのイメージアップ、あるいはテナントミックスによる機能強化など、駅前に計画している複合型の市街地再開発事業を契機に、商業の活性化を図るべきであると考えます。

イ 街なか観光の強化

花見山や信夫山などの自然や、福島城下などの歴史的遺産・文化などの既存資源を観光資源として掘り起こすとともに、観光バスを考慮した駐車場の整備などにより周辺観光施設との連携を強化し、街なか観光の推進を図るべきであると考えます。

そのひとつの手法として、路面電車をイメージした低速電動コミュニティバスなどによる、街なか及び観光スポットの巡回なども有効であると考えます。

また、ふくしまの優れた特産物であるモモ、ナシ、リンゴなどを駅前の店頭において、積極的に販売・陳列し、ふくしまの魅力を観光資源として、有効活用を図るべきであると考えます。

さらには、外国人などの利便性向上を図るため、駅前や観光地などにおけるWi-Fi環境の整備も有効であると考えます。

ウ イベントなどの強化

市民をはじめ観光客の方々にも楽しんでいただくため、市の催事として定着しているわらじまつりや福島稲荷神社例大祭などに加え、ふくしま街コスなど、道路・歩行者空間を活用した多様なイベントを継続・発展させるべきであると考えます。

③東口駅前通りシンボル軸及び回遊空間の強化

ア 歩行者・滞在者のための東口駅前通りの強化

歩行者・滞在者が快適で安全に街なかを散策でき、にぎわい、魅力的な道路・歩行者空間を整備し、ストリートミュージック、ストリートパフォーマンス、イベント開催など、イベントストリートとして利用し回遊性の強化を図るべきであると考えます。

そのひとつの手法として、四季が織りなすふくしまをイメージした花などによる景観整備や、トランジットモール、オープンカフェなども有効であると考えます。

イ 広場の整備とパセオ通りの再生

市街地再開発事業から生み出される公開空地や街なか広場は、ストリートミュージック、ストリートパフォーマンス、イベント開催など、レクリエーション機能の充実を図るべきと考えます。

パセオ通りは、商業活性化の取り組みと連動したコミュニティ道路としての再生を図るべきであると考えます。

ウ 新東西自由通路の検討

新東西自由通路を整備し、歩行者が安全で利用しやすい移動環境の整備、駅

利用者の利便性向上、駅東口・西口地区の連携強化を図るべきと考えます。

実施にあたっては、駅前広場や駅舎の連携を図る駅の橋上化や、福島交通飯坂線などの乗り入れ検討などの多くの課題を有することから、関係機関との協議や事業化の検討を行うべきであると考えます。

当面は、東京オリンピック・パラリンピックに向け、福島駅東口・西口周辺における温泉地や観光地などへの案内サインについて、外国人及び県外からの来訪者などの移動環境の向上を図るため、早急に整備すべきであると考えます。

④産官学民による連携のための場の創出

ア 産・官・学・民によるまちづくり

官民連携や民間アイデアを取り入れる体制づくりを検討するとともに、民間事業者の創意工夫を活用し、産・官・学・民が一堂に会し、話し合い、役割と責任を担いながら、まちづくりを進めるべきであると考えます。

イ 再開発による民間活力との連携

コンベンション施設の整備においては、コンベンション機能を補完する宿泊・バンケット機能の導入を検討している複合型の市街地再開発事業との連携について検討すべきであると考えます。

(2)市役所周辺エリアについて

市民利用施設の充実のため市民利用向け機能の集積・強化が必要であると考えます。

① 公共施設の再編・機能の集約

市民利用施設と災害時の避難所としての役割を有する市役所本庁舎西棟に、統合・複合化を検討している教育・文化・図書館・生涯学習機能は、市民利用の利便性向上を考慮するとともに、相乗効果が発揮できるよう機能の配置を検討すべきであると考えます。

② 交通網の充実

拠点施設整備に伴い発生集中する交通について、駐車場などの対策を検討するとともに、駅並びに駅前周辺エリアと市役所周辺エリア間における、高齢者や交通弱者などの円滑な移動を確保するための交通網及び交通手段の充実を図るべきであると考えます。

《むすびに》

本市駅前には、老朽化しつつある街並みの再整備など、都市の再生に向けたまちづくりが、民間活力などにより動き出しつつあります。このまちづくりの動きを好機ととらえ、県都にふさわしい魅力あふれる広域的な拠点として、福島駅周辺をさらに発展させるべきであると考えます。

そのため、計画策定や事業推進にあたっては、早急にその方針を明確化し、産・官・学・民の参画を得ながら、国・県との連携のもとで推進すべきであると考えます。

最後に、この提言が、今後のまちづくりに反映されますよう、強く願うものであります。

中心市街地機能強化エリア・動線軸

【福島市の概要】



〈強化すべき都市機能の配置〉

福島駅周辺は、公共交通の要衝として首都圏などからのアクセスも良く、広域的な商業・高度医療・大学が集積する福島の強みを生かし、さらなる商業・教育・文化・交流機能の集積・強化を行い、福島らしさの醸成が必要であると考えます。

〈まちづくりの基本的な考え方〉

福島駅を中心とした中心市街地は、県都にふさわしい魅力あふれる広域的な拠点として、さらに発展するために交流・集客拠点の整備と多様な都市機能の集積強化を図り、魅力の向上と賑わいの創出を目指したまちづくりを推進すべきであると考えます。

風格ある県都ふくしまの実現

方針1 広域的な拠点地区として活力のあるまちづくり

広域コンベンション・商業・業務・教育・文化・医療・福祉・生涯学習・宿泊・交流・情報発信など多様な都市機能を集積強化させ、活力あるまちづくりを推進すべきであると考えます。

方針2 魅力的で賑わいのあるまちづくり

商業環境の活性化やイベント等の充実、街なか観光の強化により、魅力的で賑わいのあるまちづくりを推進すべきであると考えます。

方針3 まちを楽しみ、すごせる
シンボル軸・回遊空間づくり

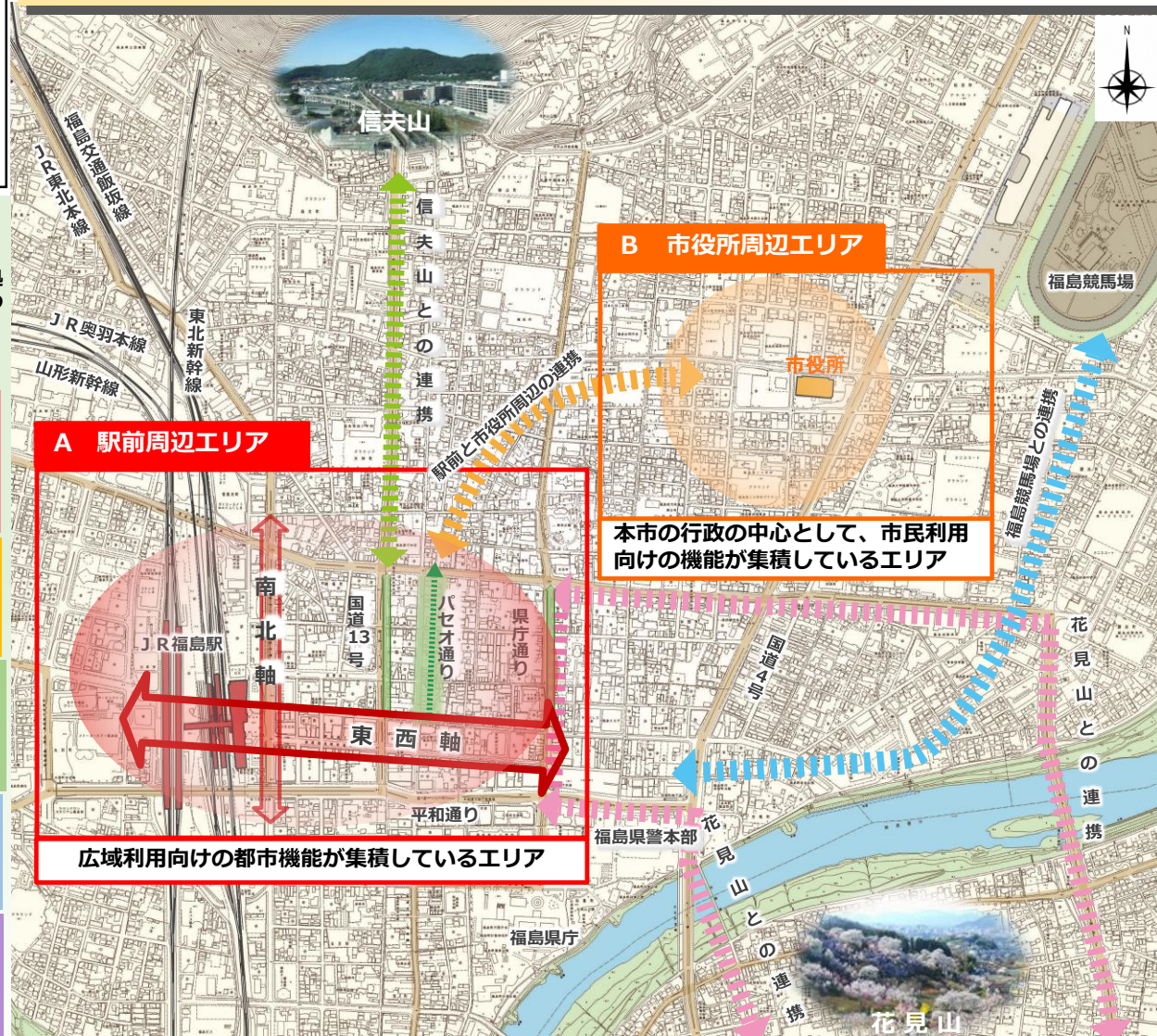
住む人も、訪れた人も、まちを楽しみ、すごせる歩行・広場空間づくりを推進すべきであると考えます。

方針4 快適で住みやすいコンパクトなまちづくり

生活に必要な都市機能が充実し、誰もが便利で安全・安心・快適にすごすことのできるまちづくりを推進すべきであると考えます。

方針5 みんなが参画し連携するまちづくり

暮らし・学び・働く人々が一緒に、自らのまちを考え、中心市街地のまちづくりを進めるため、ルールや仕組みづくり、効果的かつ効率的に実践すべきであると考えます。



A 駅前周辺エリア

広域利用向けの都市機能が集積しているエリア

B 市役所周辺エリア

本市の行政の中心として、市民利用向けの機能が集積しているエリア

B 市役所周辺エリア

① 公共施設の再編・機能の集約

■ 市民利用施設と災害時の避難所としての役割を有する施設に、統合・複合化を検討している教育・文化・図書館・生涯学習機能は、市民利用の利便性の向上を考慮するとともに、相乗効果が発揮できる機能の配置検討を図る



生涯学習 イメージ



学習スペース イメージ
撮影：ナカサ&パートナーズ



地域コミュニティ イメージ



私たちのまち福島の歴史セミナー



図書館 イメージ

② 交通網の充実

■ 駅から駅前エリアと市役所周辺エリア間における、円滑な移動を確保するための交通網の充実を図る



市内循環もりんバス



低速電動コミュニティバス イメージ

《開催経過》

	主な内容	開催日時	開催場所
第1回	中心市街地の課題整理について など	6月4日(月) 14:15~16:00	福島市役所 4階 庁議室
第2回	今後のまちづくりの検討項目について など	7月5日(木) 10:00~12:00	福島テルサ 3階 あづま
第3回	まちづくりの方針(案)について 都市機能の配置方針(案)について など	10月9日(火) 15:00~17:00	コラッセふくしま 3階 企画展示室
第4回	中心市街地将来ビジョンに関する提言書(案) について など	11月14日(水) 13:15~15:00	福島市役所 4階 庁議室

《委員名簿》

No.	区分	氏名	所属等	役職	備考
1	学識経験者	サトウ シゲル 佐藤 滋	早稲田大学研究院教授	委員長	福島市景観審議会会長 (都市計画)
2	学識経験者	コバヤシ ケイイチ 小林 敬一	東北芸術工科大学 基盤教育研究センター教授	副委員長	福島市都市計画審議会会長 福島市立地適正化計画策定協議会会長 福島市景観審議会副会長 (都市デザイン)
3	学識経験者	ニシダ ナホコ 西田 奈保子	福島大学准教授	委員	福島市都市計画審議会委員 福島市建築審査会委員 (都市政策)
4	学識経験者	ニシウチ ミナミ 西内 みなみ	桜の聖母短期大学学長	委員	福島市都市計画審議会委員 (教育・子育て)
5	経済界	イシイ ヒロシ 石井 浩	福島商工会議所専務理事	委員	
6	まちづくり	コバヤシ ユウイチ 小林 勇一	(株)福島まちづくり センター代表取締役社長	委員	
7	市民・自治	ヒキチ クニオ 引地 洲夫	福島市町内会連合会監事 中央地区町会連合会会長	委員	福島市立地適正化計画策定協議会委員 福島市都市計画審議会委員 入江町団地親和会会長
8	商業	オガワ ヒデオ 小河 日出男	福島市商店街連合会会長	委員	
9	観光	タカハシ ミナコ 高橋 美奈子	福島県旅館組合 青年部理事	委員	
10	教育	サトウ レイコ 佐藤 玲子	福島市教育委員	委員	一級建築士
11	医療	ヒラコ ケン 平子 健	(一財)大原記念財団 大原総合病院理事長	委員	
12	福島市	ヤマモト カツヤ 山本 克也	副市長	委員	

《オブザーバー名簿》

No.	区分	氏名	所属等	役職	備考
1	行政	コナミ タカヒロ 小浪 尊宏	国土交通省東北地方整備局 福島河川国道事務所長	オブザーバー	
2	行政	ホッタ ヨウイチ 堀田 洋一	福島県北建設事務所長	オブザーバー	
3	交通	キクチ タカヒロ 菊地 啓広	東日本旅客鉄道(株) 仙台支社総務部 企画室担当課長	オブザーバー	第1回~第2回検討委員会【尾形 宗昭】
4	交通	ムトウ ヤスノリ 武藤 泰典	福島交通(株) 代表取締役社長	オブザーバー	